

など鉄製東京 金属外壁材の再資源化枠組み

3社協定締結、拡充も計画

東京製鉄は20日、大和ハウスグループの大和リース（大阪市）、鉄スクラップ業のナベシヨール（同）の3社で、使用済みのリース用建築部材の再資源化する枠組みを構築すると発表した。東京製鉄が再資源化ループを、大和リースが再生利用ループを担い、ナベシヨールがそのルートを確立するもので、すでに昨年5月から運用してきた。21日に3社協定「建材アップサイクルコンソーシアム」を締結する。今後は対象拠点・種類の拡充を計画していく。

大和リースが従来処分してきた使用済みのリース用外壁（金属サンドイッチパネル）を、東京製鉄が鋼材の鉄源として活用。生産した鋼材を大和リースが鉄骨材として購入し、製品化する。ナベシヨールは金属サンドイッチパネルが使用済みとなった時点から東京製鉄に納入されるまでの物流・加工処理のフローを管理していく。